

通機 会 Web ページ

<http://www.tsukikai.mce.uec.ac.jp/>



通機 会 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/uec.tsukikai>



11 期通機 会 会 長 就 任 あ い さ つ

東京計装株式会社 小柳 洋 (1978 年卒)



この度次期 11 期 通機 会 会 長 を 就 任 す る こ と に な り ま し た 小 柳 洋 で す 。 私 は 今 ま で 、 積 極 的 に は 通 機 会 に 関 与 し て き て お り ま せ ン で し た 。 主 に 、 技 術 者 と し て 中 堅 企 業 の 会 社 員 と し て 勤 め 、 本 学 機 械 工 学 科 と も 数 十 年 に わ た り 共 同 研 究 を 行 っ て ま い り ま し た 。 さ ら に 電 通 大 全 O B 会 で あ る 目 黒 会 に て 就 職 委 員 会 委 員 長 、 副 会 長 を 歴 任 し て 電 気 通 信 大 学 と そ の 卒 業 生 、 及 び 現 役 学 生 と 接 し て き ま し た 。 今 回 、 縁 が あ り 通 機 会 の 会 長 を 引 き 受 け る こ と に な り 目 黒 会 の 役 員 を 退 き 、 母 校 へ の 最 後 の 恩 返 し を す る つ も り で す 。

通機 会 は 、 過 去 一 度 活 動 が 途 切 れ 、 石 川 二 郎 先 生 が 電 通 大 機 械 科 に 着 任 さ れ た 際 に 再 構 築 さ れ た と 聞 き 及 ン で お り ま す 。 現 在 の 電 通 大 の 学 科 編 成 の 変 更 に 伴 い I ～ III 類 に 再 編 成 さ れ 、 今 ま で の 学 科 制 が 廃 止 さ れ ま し た 。 名 称 は 時 代 と と も に 変 更 さ れ て き ま し た が 、 機 械 工 学 科 も そ の 名 前 が 無 く な り 、 情 報 理 工 学 域 (学 部) と 情 報 理 工 学 研 究 科 (大 学 院) の 中 に 組 み 込 ま れ ま し た 。 本 通 機 会 も こ の 流 れ の 中 で 変 革 し て い か な け れ ば な り ま せ ン 。 通 機 会 は 目 黒 会 と 違 い 、 卒 業 生 と 各 先 生 方 、 更 に 現 役 学 生 を 繋 ぐ 極 め て 珍 し い 会 で す 。 私 は 今 ま で の 通 機 会 の 役 割 を 継 続 し て い く と と も に 、 次 々 期 (12 期) の 新 生 通 機 会 の 路 線 を 構 築 す る こ と を 命 題 と し て そ の 役 割 を 果 た し て い く 所 存 で す 。 そ の た め に は 今 ま で よ う に 学 内 先 生 方 に 頼 る こ と な く 各 O B 諸 氏 の 積 極 的 な 参 加 が 必 須 で す 。 今 後 も O B 諸 氏 の ご 協 力 の 程 お 願 い 申 し 上 げ 、 あ い さ つ に 代 え さ せ て い た だ き ま す 。

第 11 回 通 機 会 総 会 開 催 報 告

副 会 長 田 中 基 康 (2005 年 卒)

2022 年 6 月 25 日 (土) 、 第 11 回 通 機 会 総 会 が オ ン ラ イ ン に て 開 催 さ れ ま し た (参 加 者 32 名) 。 総 会 で は 前 期 で あ る 第 10 期 の 会 長 挨拶 、 活 動 報 告 、 会 計 報 告 、 監 査 報 告 が 行 わ れ た ほ か 、 会 則 改 正 (ク ラ ス 委 員 に 関 す る 会 則 を 削 除) が 提 案 、 承 認 さ れ ま し た 。 次 に 、 今 期 で あ る 第 11 期 の 役 員 改 選 、 会 長 挨拶 の 後 、 通 機 会 の 今 後 と 第 11 期 活 動 計 画 、 予 算 案 に つ い て 議 論 が 行 わ れ ま し た 。 具 体 的 に は 、 通 機 会 の 今 後 と し て 「 現 在 の 通 機 会 か ら 、 目 黒 会 グ ル ー プ 会 と し て の 通 機 会 に 移 行 す る こ と 」 「 グ ル ー プ 会 委 員 会 を 設 立 し 、 移 行 を 実 施 す る こ と 」 の 2 点 に つ い て が 提 案 、 承 認 さ れ ま し た 。 前 期 か ら の 課 題 と し て 、 現 状 の 体 制 で の 維 持 が 困 難 な 状 況 で あ り 、 通 機 会 は 大 き な 変 革 期 に あ り ま す 。 次 期 体 制 の 構 築 に 向 け て 有 志 の 方 々 で 議 論 が 進 め ら れ て い ま す 。

次 期 体 制 は 、 学 内 中 心 の 運 営 か ら 、 学 外 者 に よ る 役 割 分 担 、 新 た な 運 営 へ の 移 行 が 必 要 と な り ま す 。 現 体 制 の 活 動 や 通 機 会 の 財 産 で あ る 名 簿 や 資 金 に つ い て 、 次 期 体 制 に 引 き 継 げ る の か 、 引 き 継 ぐ と し た ら ど の よ う に 行 う か 、 引 き 継 げ な い と し た ら ど の よ う な 形 で 処 理 を す る の か 、 通 機 会 で 得 ら れ た 人 脈 、 つ な が り を ど の よ う に 残 す か 、 な ど 問 題 は 山 積 し て お り ま す 。 新 し い 通 機 会 の 在 り 方 の 一 つ と し て 、 個 人 名 簿 は 破 棄 、 資 金 は 大 学 や 専 攻 に 寄 付 、 と な る 可 能 性 も あ り ま す 。

次 期 体 制 構 築 の た め に ご 議 論 い た だ い て い る 有 志 の 方 々 に つ い て は 、 総 会 の 際 に は 「 グ ル ー プ 会 委 員 会 」 と い う 仮 称 が つ い て お り ま し た が 、 そ の 後 、 名 称 は 正 式 に 「 新 生 通 機 会 準 備 委 員 会 」 と 呼 称 す る こ と に な り ま し た 。 引 き 続 き 活 動 内 容 の 検 討 と 実 務 を 行 う 協 力 者 を 募 集 し て お り ま す 。 ご 協 力 い た だ け る 方 は 下 記 に ご 連 絡 お 願 い い た し ま す 。

restart@tsukikai.mce.uec.ac.jp

通機 会 だ よ り 第 48 号 の 主 な 内 容

会 長 就 任 に あ た っ て … 1 、 第 11 回 通 機 会 総 会 開 催 報 告 … 1 、 通 機 会 会 則 … 2 、 通 機 会 第 11 期 役 員 … 2 、 第 10 期 通 機 会 決 算 ・ 第 11 期 通 機 会 予 算 … 3 、 新 任 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ … 4 、 第 35 回 田 中 榮 賞 受 賞 者 … 6 、 田 中 榮 賞 受 賞 者 か ら の 寄 稿 … 6 、 学 内 情 報 こ の 一 年 … 8 、 通 機 会 会 計 報 告 … 8 、 就 職 ・ 進 学 状 況 … 9 ほ か

通機会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は通機会と称する。
- 第2条 本会は会員の連絡と親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会報その他の発行及び配布。
 2. 講演会、見学会、親睦会の開催。
 3. その他本会の目的を達成するのに必要な事業。
- 第4条 本会は事務所を電気通信大学機械知能システム学専攻内におく。
- 第5条 この会則に必要な通則は幹事会にて決める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次の通りとする。
1. 電気通信大学通信機械工学科、機械工学科、機械工学第二学科、機械制御工学科、知能機械工学科の卒業生ならびに同専攻科もしくは同大学院同専攻、機械知能システム学専攻の修了生。
 2. 電気通信大学知能機械工学科ならびに同大学院同専攻、機械知能システム学専攻に在学する学生。
 3. 上記各学科もしくは専攻の現教職員及び旧教職員。
 4. その他幹事会で適当と認めたもの。

第3章 役員

- 第7条 本会に次の役員をおく。
会長1名、副会長2名、幹事 若干名、監査2名。
- 第8条 会長及び監査は総会において会員中より選出される。
- 第9条 副会長及び幹事は会長が委嘱する。
- 第10条 会長は本会を代表し、副会長は会長を補佐する。
- 第11条 幹事は幹事会の議に沿って会務を処理する。
- 第12条 監査は会務を監視し総会に報告する。
- 第13条 役員任期は次の通常総会までとする。

第4章 総会及び幹事会

- 第14条 本会の最高決議機関を総会とする。
- 第15条 総会はその議案、日時、場所を会員に周知したうえ会長が招集する。
- 第16条 総会の議事は出席者の過半数によってこれを決める。
- 第17条 通常総会は4年に1回開く。
- 第18条 会長が認めた時または、会員の50名以

- 上から請求があった時は臨時総会を開く。
- 第19条 幹事会は会長が必要と認めた時に招集する。

第5章 会計

- 第20条 本会の経費は終身会費、寄付金、その他をもってこれにあてる。
- 第21条 本会の会計はその収支決算を通常総会において報告しなければならない。
- 第22条 終身会費は金壱万円とする。

第6章 付則

- 第23条 本会の会則の変更は総会の決議を必要とする。
- 第24条 本会則は昭和56年3月7日より施行する。

- 付記 平成2年6月23日一部改正。
付記 平成6年5月14日一部改正。
付記 平成14年5月18日一部改正。
付記 平成18年5月27日一部改正。
付記 平成22年6月26日一部改正。
付記 平成30年6月30日一部改正。
付記 令和4年6月25日一部改正。

通機会第11期役員

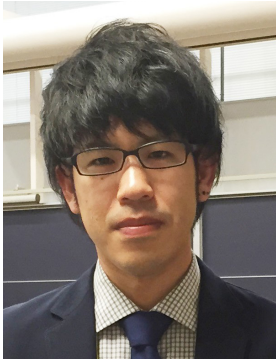
(2022～2026)

- 会長 小柳 洋 (78年)
副会長 卷島 和好 (01年)、田中 基康 (05年)
監査 瀧澤 正和 (81年)、植村 幸生 (89年)
<学外幹事>
1964年 大賀 寿郎 1965年 灰塚 正次
1969年 坂田 芳幸
1970年 島野 圭司、益田 正
1973年 中山 良一、丸田 芳幸
1976年 山田 實 1978年 小柳 洋
1979年 中川 滋 1980年 紀井 敏
1981年 瀧澤 正和 1983年 寺井 一郎
1985年 三宅 基夫 1987年 中野 禅
1989年 植村 幸生 1992年 大串 浩司
1993年 伊藤 秀樹、上野 卓也
1995年 小倉 紀男 2001年 卷島 和好
2005年 根 和幸 2008年 私市 憲司
2010年 岡本 謙、平塚 友望
2015年 本多 寿矢
<学内幹事>
1964年 梶谷 誠
1972年 石川 晴雄
1987年 金森 哉史 (会計)、松村 隆 (会員管理)
1989年 結城 宏信 (庶務)
1993年 森重 功一 (通機会だより)
2005年 田中 基康 (副会長・Web ページ)
2009年 新竹 純
※ 記載年は学部卒業年

◆◆◆◆ 新任教員からの メッセージ ◆◆◆◆

新任のご挨拶

機械知能システム学専攻 准教授 村松 大陸



2022年3月1日付で

着任いたしました村松大陸（だいろく）と申します。私は長野県長野市で育ち、東京理科大学への入学を機に千葉県野田市に移り住み4年間を過ごしました。卒業後は隣の柏市にある東京大学大学院に進学し5年間を過ごし学位を取得いたしました。

その後は母校 理科大の出身学科で助教となり、6年ほどお世話になりました。このように15年余りをチーバくん（千葉県の形のマスコット）の鼻先でうろうろしておりましたが、本学への着任と同時に調布市に移って参りました。

研究は、生体と電磁波の相互作用を扱う「生体電磁工学」を専門としております。生体、つまり私達の体は特異な電気特性を有する誘電体で構成されています。そして、緻密な組織構造、個人差、時々刻々と変化する生理作用が絡み合い、生体と電磁波は複雑な相互作用を生じます。この相互作用を解明し、情報通信・医療ヘルスケア・ヒューマンインターフェースなどの幅広い技術分野に応用することを目指しております。長く取り組んでいるテーマとして、人体を高周波信号の伝送路として利用する人体通信技術があり、着任後は人工心臓など埋込医療機器への応用研究も立ち上げました。医療分野では、生体インピーダンスに基づく非侵襲血糖モニタリングなどに取り組んでおります。その他変わり種では、食肉のうま味を電磁波の応答で評価する技術の開発も行っております。このように気の向くまま好き勝手に研究をしておりますが、2021年にノーベル物理学賞を受賞された真鍋先生が "Curiosity driven research" の重要性を説かれたのを聞き、当分はこの姿勢でやっていたこうと改めて思った次第です。また、学生にも自身の興味や感性を大事にして勉学や研究に取り組んでももらえるような指導ができればと考えております。

まだまだ若輩ではありますが、自己研鑽を怠らせず教育・研究・運営に邁進し大学の発展に貢献したいと意気込んでおりますので、皆様ご指導のほどお願い申し上げます。

新任のご挨拶

機械知能システム学専攻 助教 永松 秀朗

2022年4月1日付で



着任した永松秀朗（ながまつひであき）と申します。2012年に都立武蔵高校を卒業、2022年に東京農工大学機械システム工学専攻にて学位を取得、そして本学に参りました、生料の多摩市民です。専門は加工学で、金属3D

プリンタおよび工作機械を用いた加工実技・研究開発に従事しております。

機械いじりが大好きでもものづくりサークルで腕を鳴らす、とは無縁の学生生活を送っており、少年ジャンプとアイドルに一喜一憂していた阿呆の学生その一でした。そんな私が機械加工に携わり始めたのは研究室配属の時に、当初は「高価な加工機と材料さえあれば何でもできる」などと高を括っておりました、阿呆なので。言わずもがな機械加工は単純ではなく、適切な加工条件・工具、固定方法や加工手順などを全て考慮しなくてはなりません。金属3Dプリンタの場合、一般的に金属の熔融・凝固を繰り返しながら積層を行います。したがって、造形物の形状精度は熔融金属の温度状態、界面物性や粘度に左右されます。また、急加熱・急冷サイクルを繰り返すため、金属組織の制御、すなわち所望の機械的特性を獲得することは非常に困難です。このように、工作機械や3Dプリンタは一見何でも出来そうですが、実技的な経験と物理現象の理解なくしては単純な形状すら作製出来ません。このギャップに魅了され、今日に至るまで研究開発に従事する動機となりました。

デジタル化が進む昨今、機械加工に興味がない学生は増加傾向にあると思います、手汚れますし。実際、生産加工に関連する従事者は年々減少しています。だからこそ、機械加工の難所・奥深さに気付ける機会を一人でも多くの学生に与えていきたいです。また、とても魅力的な先生・研究室が沢山ある中、私の研究室を選択した学生には感謝しかありません。まずは永松研究生と一つでも多くの気付き・経験を共有できるよう精進したいと思っております。皆様何卒宜しくお願い致します。

新任のご挨拶

機械知能システム学専攻 助教 大下 雅昭



2022年4月1日付けで機械知能システム学専攻の助教(任期付き)に着任致しました大下雅昭(おおした まさあき)と申します。専攻では正本 和人教授の研究室に所属させて頂いております。生まれは山口県の柳井市で2013

年に本学の知能機械工学科へ入学し、2017年に学士号を取得しました。それ以降は本学の菅 哲郎教授の元でお世話になり、修士号(2019年)及び博士号(2022年)を取らせていただきました。学部生の時から電通大で生活してきたため、調布での生活も長いもので早10年目に突入しており、駅前の様子や商店街の変化に時の流れを感じている今日この頃です。

菅研究室では主にMEMS(Micro Electro Mechanical Systems: 微小電気機械システム)の技術と光物性、特にナノ・マイクロスケールの金属微細構造上で発生する電子の集団的な振動であるプラズモンを組み合わせた新規デバイスの研究に従事しておりました。プラズモンが発生している金属微細構造をMEMS技術で変形させると検出する光の特性を動的に変化できる光検出器が作れるため、単一の素子に複数の検出特性を付与してセンササイズを縮小できます。私はこの研究が生体内等の空間的に限定された状態での単面素蛍光イメージングや分光計測等に活用できると見込んでおります。その第一歩として助教として着任した正本研究室では脳血管内でのイメージングや化学量計測に応用できるデバイスの研究に着手しています。例えばプラズモンは金属構造の変形以外では周囲の誘電率の変化によって励起波長を鋭敏に変化させます。デバイス表面に特定の分子のみを選択的に補足する膜を形成できれば、この誘電率の変化を血中成分の化学量として計測することができます。将来的にはこれらの研究をこれからの医工学の発展に貢献できるような形にしていきたいと思っております。

私はまだ2022年に博士を取ったばかりの右も左も分からぬ新米ですが、微力ながら本学の教育・研究・運営活動に貢献させて頂きたいと考えております。至らぬ点ばかりかもしれませんが、今後とも皆様からのご指導とご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

機械知能システム学専攻 助教 佐藤 隆紀



2022年10月1日付で助教として着任しました佐藤隆紀(さとう りゅうき)と申します。東京都国立市で生まれ育ち、学部、大学院は本学知能機械工学科の明愛国教授の研究室で生物模倣ロボットの研究に取り組んでおりました。本学機械知能シ

ステム学専攻で博士号を取得後、1年半ほど特任研究員として本学に在籍し、2021年9月から1年ほど名古屋大学にて特任助教を務めたのち、この度現職に就く機会をいただきました。既に10年以上通い続けたなじみの深いキャンパス、在学中の大半を過ごした東4号館に、教員として戻ることができたことは、とても感慨深い思いです。また、これまで打ち込んできた研究を、慣れ親しんだ設備が整っているこの上ない研究環境で進めていけることに感謝しております。

私は、動物の筋骨格構造を規範とした脚ロボットの研究開発に取り組んでいます。特に、ネコがみせる機敏な運動やしなやかな身体使いを実現できる脚ロボットを目指して、身体の筋腱の配置や特徴を参考にした機構の設計と運動制御を開発してきました。ここ数年で、国内外の多くの著名な研究グループや海外スタートアップ企業がこぞって脚ロボット開発参入して進化が加速していますが、それでもなお動物の運動能力には遠く及びません。生物模倣のアプローチで動物の運動能力に迫るロボットを実現すべく、日夜研究に励んでいます。最近では、この研究で得た知見を産業ロボット等に応用することで、人間とロボットとが協調・協働する社会の実現に向けた研究にも着手しています。

私は在学中、ものづくり研究を通して様々なことを学び得ました。これからは指導する側の立場として、電通大という恵まれた環境でその特色を活かし、座学だけでなくものづくりのような実践までを含めた教育研究ができるよう精進してまいり所存です。どうぞ皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

第 35 回田中榮賞 受賞者

令和3年6月

君塚 進 (課程博士 (工学))

「筋電肩義手のための体幹筋電による操作法と全軸干渉型ロボットアーム」

(指導教員：姜銀来准教授)

景 暁蓓 (課程博士 (工学))

「デュアル把持モードを備えた単一駆動源による多動作・軽量型幼児用義手の開発」

(指導教員：横井浩史教授)

令和3年9月

山藤 勝彦 (課程博士 (工学))

「摩擦型動力伝達装置に発生する不安定振動のメカニズムの解明と振動を発生させないための安定化法」(指導教員：澤田賢治准教授)

山根 康嗣 (課程博士 (工学))

「回転塑性加工における内部割れ発生機構と延性破壊条件の提案」(指導教員：久保木孝教授)

令和3年12月

須賀 拓馬 (課程博士 (工学))

「局所的な信号対雑音比の不均質性を考慮した2光子レーザー顕微鏡画像の定量解析」

(指導教員：正本和人教授)

令和4年3月

梅原 裕太郎 (課程博士 (工学))

「Investigation of the Quenching Phenomena on High-Temperature Solid Surface」

(指導教員：大川富雄教授)

大下 雅昭 (課程博士 (工学))

「角度走査型プラズモニク光検出器による近赤外分光素子の研究」(指導教員：菅哲朗准教授)

Santiago Galicia Edgar (課程博士 (工学))

「Experimental and Simulation Study on the Improvement of Heat Transfer Coefficient Using Sintered Porous Materials」(指導教員：榎木光治准教授)

李 文揚 (課程博士 (工学))

「ワイヤ干渉駆動モジュールを用いた人型ロボットアームの開発」(指導教員：姜銀来准教授)

渡辺 一宏 (課程博士 (工学))

「多周波ステップレーダにおける目標検出のため

の信号処理に関する研究」

(指導教員：稲葉敬之教授)

高橋 元気 (課程博士 (工学))

「地図作成効率化のためのMMS点群の構造化と道路地物抽出」(指導教員：増田宏教授)

Fan-Nong Yu (課程博士 (工学))

「Stabilization Control Design for Polynomial Fuzzy Systems Represented in Descriptor Form」

(指導教員：田中一男教授)

田中榮賞受賞にあたり

機械知能システム学専攻 君塚 進

この度は栄えある田中榮賞を授与していただき、大変光栄に感じております。通機会関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

私は木更津高専の専攻科を経て2016年に機械知能システム学専攻に入学しました。高専ではパワーアシストなど福祉関係の研究をしており、同じ福祉関係の研究として横井先生の筋電義手に強い興味を持ったことが本学への進学を決めたきっかけでした。入学当初は知り合いも少なく、高専と大学の違いに大変苦労しました。しかし、良き友人と優れた指導教員の先生方に恵まれたことで、心折れることなく学業と研究に打ち込むことができました。研究室での友人との他愛ない会話から研究のアイデアを貰うこともありました。行き詰った時に指導教員の先生からの的確なアドバイスを頂くこともありました。私の博士論文である「筋電肩義手のための体幹筋電による操作法と全軸干渉型ロボットアーム」が完成できたのは、一切の誇張なく私を支えてくださった皆様のおかげです。入学当初から博士の学位取得に至るまで熱心にご指導くださった横井浩史先生、姜銀来先生に深く感謝を申し上げます。また、様々なご助言、ご支援をいただいた東郷俊太先生および研究室メンバーの方々に心よりの感謝を申し上げます。最後に、ご多忙のなか論文審査を通して貴重なご意見やご助言をいただいた金森哉史先生、明愛国先生、学外から論文審査に参加して下さった横浜国立大学の加藤龍先生に、厚く御礼を申し上げます。2020年4月からは助教として、母校である木更津高専で教鞭を振っております。今後は研究者としてだけでなく、教育者としても日本の科学技術の発展に貢献できるよう日々精進してまいります。

田中栄賞受賞にあたり

機械知能システム学専攻 山根 康嗣

この度は博士（工学）の学位に加え、荣誉ある田中栄賞を賜り、大変光栄に存じます。通機会関係者の皆様には厚くお礼を申し上げます。

私は2009年に他大学にて修士課程を修了後、鉄鋼メーカーに就職し、製鉄法の研究開発に従事しておりました。国際学会での交流、共同研究を機に、2018年4月に社会人ドクターとして入学し、3年半を要して2021年9月に学位記を賜りました。懇切丁寧にご指導いただいた指導教官の久保木教授、梶川准教授に深謝申し上げます。また、審査委員である増田教授、森重教授、松村准教授には多くのご助言とご指導を賜りました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

さて、本稿では社会人が博士号を取得する価値を伝えたいと思います。私の勤務先では、留学制度を除いて学費は自己負担ですし、平日は仕事があるので勤務後と休日に論文を執筆することとなり、博士号取得にはお金と時間を捻出しなければなりません。中でも、海外誌への投稿論文は査読が厳しく、受理まで粘り強く議論する必要がありました。査読付き論文を揃えた後も、学位論文審査会では鋭い質問が飛び交い、それに回答しなければなりません。しかし、一連の執筆活動を終える頃には、専門性の深化は当然として、論理的思考力が格段に向上し、簡潔明瞭な文章・図表を作成するスキルが身に付いているはずです。

現在、私は研究企画部門へ異動となり、技術資料作成や予算申請に追われる日々を送っています。管理部門に報告する際は、数字に抜けや矛盾の無い、ディフェンス力が高い資料を作成し、趣旨を論理的かつ簡潔明瞭に伝えることが重要になります。奇しくも、これは学位論文に求められることと同じであり、本学での経験が業務の幅を広げてくれたと感謝しております。本稿が博士後期課程へ進学を考えている方々の一助になれば幸いです。

田中栄賞受賞に寄せて

機械知能システム学専攻 梅原 裕太郎

この度は荣誉ある田中栄賞を賜り、誠にありがとうございます。通機会関係者の皆様には深く御礼申し上げます。

私は、2013年4月に電気通信大学情報理工学部知能機械工学科に入学後、学部4年から大川・榎木研究室に所属し、主に高温物体の冷却の際に生じる非定常熱伝達（クエンチ現象）に関して5年間研究活動を実施してきました。初めての実験は、1000℃のステンレス角柱（100×100×5mm厚）を水中に浸漬し、その様子を高速度カメラで撮影するものでした。今から思えば、大した実験ではないのですが、完全防備でかなり緊張して取り組んだことは良い思い出です。数々の実験の中でも流路のパイプをつなぎ、水漏れなく、実験装置が動き始めたときに特に達成感がありました。学位論文では、高速度カメラと赤外線サーモグラフィの同期撮影により、高温面に沿って流下する液膜先端で生じるクエンチ現象の詳細観察を実施しました。世界で初めてクエンチ現象を伝熱・流動の両側面からとらえることで、実現象に基づいたクエンチ現象の詳細なモデル化を実現しました。最終的にはクエンチ現象を促進する（急速冷却を実現する）道筋を示すことができたと考えています。このような知見を得ることができたのは、大川教授や榎木准教授との濃密な研究ディスカッションのおかげであったと思います。また、実験装置の作製に際し、様々な相談に乗って頂いた工場の職員方にも大変お世話になりました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

研究室では、様々なバックグラウンドを持つ先輩・同期・後輩に囲まれ、非常に充実した研究生活を送ることができました。特に多くの外国人留学生との交流の中で、国際感覚を身に着けることができたのは良い経験でした。

2022年4月からは、九州大学大学院工学研究院機械工学部門において助教に就任します。これまで培ってきた知識や経験をもとに、熱工学としての学問の追求に加え、社会に研究成果を実装していける研究を実践していきたいと思っています。

◇◇◇ 学内情報この一年 ◇◇◇

1. 教職員の異動など

令和4年3月1日

村松大陸准教授 採用

令和4年3月31日

稲葉敬之教授 定年退職

田中繁特任教授 退職

令和4年4月1日

菅哲朗准教授 教授に昇任

永松秀朗助教 採用（森重研究室）

大下雅昭助教 採用（正本研究室）

令和4年10月1日

佐藤隆紀助教 採用（明研究室）

2. 卒業生と新入生の記録

令和3年9月30日 9月期修了

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 2名

機械知能システム学専攻 博士後期課程 2名

令和3年10月1日 10月入学

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 2名

機械知能システム学専攻 博士後期課程 5名

令和3年12月31日 12月期修了

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士後期課程 1名

令和4年3月24日 卒業式

情報理工学域 II類 計測・制御システム 46名

II類 先端ロボティクス 57名

III類 機械システム 44名

情報理工学部 知能機械工学科 10名

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 109名

博士後期課程 7名

令和4年4月6日 入学式

情報理工学域

昼間コース 716名

夜間主コース（先端工学基礎課程） 31名

情報理工学域 特別編入学

II類 計測・制御システム 1名

II類 先端ロボティクス 6名

III類 機械システム 3名

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 123名

博士後期課程 10名